

決議（案）第3号

JR首都圏主要線区のワンマン運転、実施計画の見直しを求める決議

上記の決議（案）を別紙のとおり提出する。

令和7年12月19日

三鷹市議会議長 伊藤俊明様

提出者 三鷹市議会議員 栗原けんじ
賛成者 // 野村羊子

J R 首都圏主要線区のワンマン運転、実施計画の見直しを求める決議

2025年9月24日、東日本旅客鉄道株式会社は、京浜東北・根岸線、中央・総武線（各駅停車）のワンマン運転実施計画をプレス発表した。

この計画は中央・総武線（各駅停車）三鷹駅・千葉駅間（10両編成）と京浜東北・根岸線大宮駅・南浦和駅間、蒲田駅・大船駅間（10両編成）で2027年春からワンマン運転を実施するとしている。

ワンマン運転実施のため、安全性向上のための取組として、運転席乗降確認モニターの設置や、異常時等における乗客と輸送指令室との通話や輸送指令室からの直接車内放送機能の導入、係員に対する教育訓練、ホームドア整備の推進を示している。

しかし、ワンマン運転は、車掌と運転士のツーマン運転で車掌が担っている車両のドアの開閉、乗降客の安全確認、乗客対応などの業務を運転に専念していた運転士が同時に担うことになる。通勤ラッシュ時の中央・総武線の乗客数は、混雑率180から200%に達するような、ピークで約2,700から3,000人が想定され、混雑時、乗客の乗降車時の安全を確保した列車の運行や異常時の避難誘導などの緊急対応は、運転士1人のワンマン運転では万全に行うことは困難である。

現に首都圏主要線区ワンマン運転実施計画の第一歩として、2025年3月から常磐線（各駅停車）、南武線でワンマン運転が開始されているが、ワンマン運転による乗降時の安全確認などを起因とする定時運転の遅延など、トラブルが発生している。また、ホームドアは、総武線停車駅の多くで未設置の状況にある。

東日本旅客鉄道株式会社は、鉄道をより効率的でサステナブルな輸送モードとしていくためとしてワンマン運転拡大を進めようとしているが、公共交通機関として重要な鉄道において最も重要な使命は安全な旅客運行である。乗客の多い中長編成の車両の運行は、より高い安全性を確立しなければならない。

よって、本市議会は、東日本旅客鉄道株式会社に対し、三鷹駅をはじめ、総武線全駅プラットホームのホームドアの整備を求めるとともに、乗客の安全を最優先に考える運行を求める立場から、J R 首都圏主要線区のワンマン運転の実施計画を見直し、車掌と運転士を配置した運行体制を求める。

上記、決議する。

令和7年12月19日

三鷹市議会